

答え合わせ・解説

問1	答え 3 牛	「牛に引かれて善光寺参り」の「牛」の部分が入ります。意味は「他の誘いや偶然のきっかけによって、思いがけず良い方向へ導かれること」です。
問2	答え 1 居ぬ	「鬼の居ぬ間に洗濯」の「居ぬ」の部分が入ります。意味は「怖い人がいない間に、のびのびとくつろぐこと」です。
問3	答え 1 幸福と不幸は交互にやってくるもので、予測できない	「禍福はあざなえる縄のごとし」は「幸福と不幸は交互にやってくるもので、予測できない」という意味です。
問4	答え 1 金	「沈黙は金」の続きは「金」です。意味は「黙っていることは、言葉を発することと同じくらい価値がある」です。
問5	答え 1 小	「大は小を兼ねる」の「小」の部分が入ります。意味は「大きいものは小さいものの代わりにもなるので、役に立つ」です。
問6	答え 2 好きなことに対しては熱心に取り組むので、自然と上達するものだ	「好きこそ物の上手なれ」は「好きなことに対しては熱心に取り組むので、自然と上達するものだ」という意味です。
問7	答え 1 嫁に食わすな	「秋茄子は嫁に食わすな」の続きは「嫁に食わすな」です。意味は「秋の茄子は体を冷やすので、子供を産む大切な嫁の健康を気遣う気持ち」です。
問8	答え 2 鬼はない	「渡る世間に鬼はない」の続きは「鬼はない」です。意味は「世の中には冷酷な人ばかりではなく、親切な人もいるものだ」です。
問9	答え 4 害ばかり多くて、少しも利益がないこと	「百害あって一利なし」は「害ばかり多くて、少しも利益がないこと」という意味です。
問10	答え 3 知らないでいれば、心穏やかでいられるということ	「知らぬが仏」は「知らないでいれば、心穏やかでいられるということ」という意味です。
問11	答え 2 大怪我	「生兵法は大怪我のもと」の「大怪我」の部分が入ります。意味は「中途半端な知識や技術で物事を行うと、かえって失敗や大きな損害を招くこと」です。
問12	答え 3 一度うまくいったからといって、二度目も同じようにうまくいくとは限らないということ	「柳の下の泥鰌」は「一度うまくいったからといって、二度目も同じようにうまくいくとは限らないということ」という意味です。
問13	答え 3 論語	「論語読みの論語知らず」の「論語」の部分が入ります。意味は「知識ばかりあって、実際にはその意味を理解していないこと」です。
問14	答え 2 あれこれ議論するよりも、実際の証拠を示すほうが確実だということ	「論より証拠」は「あれこれ議論するよりも、実際の証拠を示すほうが確実だということ」という意味です。
問15	答え 3 縄を綯う	「泥棒を見て縄を綯う」の続きは「縄を綯う」です。意味は「事が起きてから慌てて準備をすること」です。
問16	答え 1 煙は立たぬ	「火のない所に煙は立たぬ」の続きは「煙は立たぬ」です。意味は「噂が立つにはそれなりの理由があるはずだ」です。
問17	答え 3 時期を逃してしまい、手遅れであること	「後の祭り」は「時期を逃してしまい、手遅れであること」という意味です。
問18	答え 3 打たれる	「出る杭は打たれる」の続きは「打たれる」です。意味は「才能があつたり目立つたりする人は、とかく人から憎まれたり邪魔されたりする」です。